

B型肝炎ワクチン

知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis
多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。
www.immunize.org/visをご覧ください。

1 なぜワクチン接種が必要ですか？

B型肝炎は深刻な肝臓の病気です。B型肝炎ウイルスが原因です。B型肝炎に感染すると、軽度の症状が数週間続くか、または深刻で一生涯治らない病気に進展する場合があります。

B型肝炎ウイルス感染には急性と慢性の感染があります。

急性のB型肝炎感染は、B型肝炎ウイルスの感染機会から6カ月以内に発生する短期間の病気です。次の症状が見られます：

- 発熱・倦怠感・食欲不振・吐き気・おう吐
- 黄疸（皮膚や目の白い部分が黄色くなること、濃い色の尿が出る、褐色の便が出る）
- 筋肉痛、関節痛、胃の痛み

慢性のB型肝炎ウイルス感染は、B型肝炎ウイルスが体内に残った場合に生じる長期間の病気です。慢性B型肝炎に移行しても、ほとんどの場合無症状ですが、慢性B型肝炎は非常に深刻で次のような病気に進展する場合があります：

- 肝臓の損傷（肝硬変）
- 肝臓がん
- 死亡

慢性感染者は、本人に自覚症状がなく外見上健康に見えても、B型肝炎ウイルスを伝播する場合があります。米国の慢性B型肝炎感染者数は、最大140万人と推定されています。B型肝炎に感染した乳児の約90%が慢性感染へ移行し、4人に1人が死亡します。

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスに感染した血液・精液・その他の体液が非感染者の体内に入ることによって伝染します。ウイルス感染経路は以下があげられます：

- 出産（母親が感染者の場合、出産時または出産後に感染する可能性があります）
- 感染者とカミソリ・歯ブラシなどを共用すること
- 感染者の血液・傷口に接触すること
- 感染者との性行為
- 注射器・注射針・その他薬物注入器具の共用
- 感染者の血液が付着した針・その他先の尖った器具を誤って刺した場合

米国で報告されているB型肝炎関連の肝臓病死亡者数は、毎年およそ2,000件です。

B型肝炎ウイルスの接種により、B型肝炎の感染、および肝炎から進展する肝臓がん・肝硬変が予防できます。

2 B型肝炎ワクチン

B型肝炎ワクチンは、B型肝炎ウイルスの成分を用いて作られます。ワクチンからB型肝炎には感染しません。6カ月間で3-4回の接種が行われます。

乳児には出産時に初回のB型肝炎ワクチン接種を行い、通常は生後6カ月までに残りの接種を行います。

19歳以下の**児童および青年**でワクチン接種を受けたことがない場合、全員が接種せねばなりません。

B型肝炎ウイルスワクチン未接種の**成人**で次に当てはまる場合には、感染のリスクが高いため、B型肝炎ワクチンの接種が推奨されています：

- B型肝炎感染者がセックス・パートナーである場合
- 不特定多数のセックス・パートナーがいる場合
- 性病検査を希望している、または性病治療中の場合
- 男性同士で性交を行う場合
- 注射器・注射針・その他の薬物注入器具を共用する場合
- B型肝炎ウイルス感染者と同居している場合
- 血液や体液に接する機会が多い保険医療従事者
- 発達障害者施設の入所者および職員
- 矯正施設入所者
- 性的暴行または性的虐待の被害者
- B型肝炎の流行地域を旅行する場合
- 慢性の肝臓病・腎臓病・HIV感染者・糖尿病患者
- B型肝炎感染の予防を希望する場合

他のワクチンと同時にB型肝炎ワクチンを接種する場合の問題は報告されていません。

3 ワクチン接種を避けなければならない場合

以下に当てはまる場合は、ワクチン接種時に担当者にお伝えください：

- **何かに対して生死に関わる強いアレルギーがある場合**

B型肝炎ワクチン接種後に生死に関わるアレルギー反応が見られた場合、またワクチンの成分に



強いアレルギーがある場合、ワクチン接種を控えるよう指示される場合があります。ワクチンの成分についてさらに詳しい情報が必要な場合、医師にご相談ください。

• 気分が優れないとき

風邪などの軽い病気にかかっている場合、本日のワクチン接種はおそらく可能です。中程度から重い病気にかかっている場合は、おそらく回復するまで待たねばなりません。医師の診断を受けてください。

4 ワクチンの副反応のリスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。これらの症状は通常軽く、自然に治まりますが、深刻な反応が見られる場合もあります。

B型肝炎ワクチンを接種しても、ほとんどの場合に問題はありませぬ。

B型肝炎ワクチン接種後に発生する軽度の問題には以下があげられます：

- 接種部分の痛み
- 99.9°F以上の発熱

これらの症状は、通常接種直後に現れ、1-2日間続きます。

これらの症状について詳しい説明は、医師にご相談ください。

接種後のその他の問題としては、次があげられます：

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 接種後に通常想定される痛みよりも強く長く続く肩の痛みを感じる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種によるこのような反応は非常に稀で、100万回に1回程度で、接種後数分-数時間で発生するものとされています。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡の原因となる可能性は非常に低くなっています。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳細はwww.cdc.gov/vaccinesafety/をご覧ください。

5 重度の問題があった場合には？

どのようなことに注意せねばなりませんか？

- 強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応として、蕁麻疹・顔と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられます。これらの症状は、接種後数分から数時間後に現れます。

何をすべきですか？

- 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼ぶか最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、かかりつけの診療所に連絡をしてください。

その後、アレルギー反応をワクチン有害事象例報告データベース (VAERS) へ報告する必要があります。担当医師に報告義務がありますが、VAERSのウェブサイトwww.vaers.hhs.govで、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

6 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム (VICP) は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイトwww.hrsa.gov/vaccinecompensationでプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

7 より詳しい情報は？

- 医師にお尋ねください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター (CDC) にご連絡ください：
 - 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) まで電話か、
 - CDCのウェブサイトwww.cdc.gov/vaccinesをご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese
Hepatitis B Vaccine

7/20/2016

42 U.S.C. § 300aa-26

Translation provided by the Oregon Health Authority

Office Use Only

